



春に思う

教育長 白 杵 國 男

冬の寒さに耐え抜き、春を迎える梅の花が開花し、清楚な花立ちに凜とした美しさを感じさせます。各学校とも学校評価を取りまとめ、22年度の教育活動を総括すると共に、23年度に向けた新たな構想に向けて準備が進んでいることと思います。PDCAサイクルに基づく評価が学校教育に定着し、その分析のもとに教育活動が展開されているところですが、Cのチェックが目標数値のみの評価に終わることなく、数値に基づく子どもたちの姿、学校の姿、学校生活の姿を十分に分析して次の指導に生かしてほしいと考えます。指導の中に子どもたちの内面に寄り添った血の通った対応が教育の姿のように思います。

さて、先般佐渡ジオパーク市民講座の最終実習と閉講式がありました。市民に佐渡の大地の魅力を知って



いただくこととガイド養成を目指して開講されたもので、市民の関心は高く当初の予定よりはるかに多い受講希望があり、2班編制で年10回の講義、巡検、実習が実施されました。日本海の変遷を地層から探り、両津夷・湊の砂州形成や加茂湖・国中平野の形成を知り、鷲崎から関で佐渡島の基盤岩類を観察するなど日本海や佐渡島誕生の秘密を知り、受講された皆さんは満足されていました。

「知る」ことは自分の世界が広がることであり、「分かる」ことは自分自身が豊かになることと思います。郷土を愛し夢と誇りをもつ教育を推進するために、「佐渡学」にジオパークを位置づけて学んでいただきたいと思います。

年度末を迎えるにあたって

管理主事 羽二生 裕

弥生・3月、学校では3学期の終業式、卒業式、そして年度末・年度初めの準備と忙しい時期を迎えております。

この年度末、各学校にお願いしたいことは「地域に信頼される学校づくり」です。教職員の異動があっても、校長先生のリーダーシップの下、「地域に信頼される学校づくり」は変わりません。以下3点を大切にしたい学校づくりをお願いします。

- (1) 児童生徒、保護者、地域の皆さんに、誠実で丁寧に対応する学校
- (2) 確かさと透明性のある情報を積極的に発信する学校
- (3) 児童生徒の実態を捉えた教育活動そのものの質が高い学校

児童生徒は日々、成長しています。各校の教育活動において児童生徒の期待に応え、児童生徒の変容し向上した姿を保護者や地域の皆さんに見ていただき、学校からの情報を積極的に発信することが「地域に信頼される学校づくり」になります。

さて、この年度末は、膨大な個人情報を扱う時期です。通知表や学習指導要録の記入など、重要な個人情報を校外に持ち出したり、紛失することのないように、**個人情報の管理の徹底を**、以下3点をお願いします。

- ア 転出職員には、**管理職が期限を決めて**情報の確実な引き継ぎや不要な情報の確実な破棄をさせること。(臨時職員にも同様の対応を)
- イ 転入職員については、**前任校の個人情報**を所持していないか点検すること。
- ウ 個人所有の電子データ、パソコンについても各校の**個人情報管理規程に基づき適切に確認**を行うこと。

平成22年度学校評価を終えて

指導主事 川上 治 男

各学校が学校改善に向けて学校評価の効果を高めるためには、中学校区の共通課題を設定した上で改善に取り組み、その結果を互いに評価する場を設定することが効果的です。

22年度は、特に、次のことについて工夫・改善をお願いしました。

改善すべき課題を学校と関係する人々と共有することを大事にしながら、連携・協力する範囲をより拡大し、具体的な教育活動や運営活動を学校評価に位置付けること。

今年度、地域と連携した教育活動に取り組んだ学校数の割合は、次のとおりです。

- ・授業等の教育活動に地域の人を講師として招聘した。(97%)
- ・学校行事に地域住民が参加した。(85%)
- ・地域の公共施設を学校の教育活動に利用した。(70%)
- ・学校の教育活動として地域の行事に参加した。(77%)

地域と連携・協力した対象として、隣接学校(幼・保・小・中等) 学校支援地域本部、保護者・地域住民、漁業組合等がありましたし、NPO法人と連携・協力した学校もありました。

この外の連携でも、学校によって、また、活動によって様々な対象が考えられます。「一緒になって行うこと」「役割分担して行うこと」を意識した連携・協力を推し進められるよう、具体的な教育活動や運営活動を学校評価に位置付け、その効果を検討しながらよりよい教育活動を展開していくことが大事になります。

学校評価の点検には、「教育かえつ21」の「学校評価チェックリスト例」(【年度当初】【年度途中】【年度末】)が参考になりますので、ご覧ください。

次年度も、各学校においては、これまで身に付けた学校評価のノウハウを生かして、「組織的・継続的な改善」「学校・家庭・地域の連携協力による学校づくり」を進めていただきたいと思います。

学校現場に根ざした研修を目指して

教育指導主事 半田 廣

「授業の達人」発表会。2月22日に行われたこの研修が、教育センターの運営する最後の講座となりました。この間、多くの皆様に受講いただき、ありがとうございました。

前回、この紙上で9月末までの講座について集計結果をお知らせしました。

今回は、全ての講座についてお知らせします。

年度	基本研修	課題別研修	自主研修	関連研修	総計	受講者総数
22	19	41	20	11	91	1,052
21	18	38	25	11	92	1,063
増減	1	3	-5	0	-1	-11

このように、昨年度とほぼ同様の結果でした。

受講者の満足度は65%(4段階の4評定の割合、理センやライブラリーの講座を除く)。「ほぼ満足」の3評定を加えると、98%という高い満足度となっています。

アンケートは、受講した全ての方に協力いただきました。集計結果は、次年度の参考資料にするとともに、講師にも原則としてお届けするようにしています。受講者からは、「このような研修をもっと多くの人に受けてもらいたかった」という声が、決まって寄せられました。

今後も、実施時期や各校への働きかけを工夫していきたいと考えています。

また、講座予定を早い時期にお届けしますので、校内や中学校区の行事と講座が重ならないようお願いします。

来年度は、危機管理など学校経営や中学校新指導要領に関する講座(柔道)などの新設をします。

また、「不登校」問題については、関係者・関係機関との「連携」に重点をおいた研修に講座の内容を改めます。

さらに、佐渡学、特に「佐渡おけさ」については、実演披露の機会を増やします。ぜひ多くの方から受講していただきたいと願っています。

最後になりましたが、ご多用の中、講師を快く引き受けてくださった先生方、派遣を認めてくださった校長先生に心から感謝申し上げます。